

# 2018年度（第27期） 事業計画

自 2018年（平成30年）4月1日  
至 2019年（平成31年）3月31日

公益財団法人 北海道新聞野生生物基金

## <2018 年度予算案>

■事業活動支出総額	35,522,250円
(前年度予算	43,406,250円)
◇一般会計	27,710,400円
(前年度予算	36,878,000円)
事業費	25,801,400円
(前年度予算	34,969,000円)
管理費	1,909,000円
(前年度予算	1,909,000円)
◇特別会計	7,811,850円
(前年度予算	6,528,250円)

### はじめに

長引く景気の低迷と超低金利下にあつて、公益財団法人北海道新聞野生生物基金は寄付金収入や財産運用益も低迷したままで、厳しい環境が続いている。

収益事業のカレンダー事業は、一般販売のほか、北海道新聞社の販売所向けカレンダーの監修料 1000 万円など、引き続き収入源の柱としていく。

公益目的事業では、書店販売が振るわない自然情報誌「モーリー」は、2017 年に引き続き年 3 回発行を継続し、制作・印刷費削減など収支の改善を進める。

寄付金については、税額控除の対象法人取得要件（5 年間の年平均で 3000 円以上の寄付の個人・団体が 100 件以上あること）を維持できるよう、今後も一般向けのほか、北海道新聞社の社員・OB、販売所などへ支援を積極的に呼びかけていく。

### ◇収益事業（特別会計）

\*一般販売用カレンダー事業 400 万円

「北海道野生生物写真コンテスト」の応募作品の中から秀作を選び、動物部門の大判吊り下げ型カレンダーと、植物部門の卓上型カレンダーを発行し、当基金や書店などを通じて北海道の野生生物を守る目的と願いを込め販売している。道内外で根強い人気があり、2019 年版カレンダーも引き続き収入の柱としたい。

## ◇公益目的事業（一般会計）

### 【普及啓蒙事業】

\*シンポジウム・フォーラム

80万円

自然写真家の山本純一さんと道内音楽家らによるネイチャーフォーラムを9月17日に道新ホールで開く。5年前に実施した催しを縮小しつつも復活させる。このほか、野生生物保護、生態系保全などがテーマのイベントの開催を随時支援していく。

### 【自然体験活動事業】

(1) 環境出前講座

50万円

基金の評議員ら自然や環境問題の専門家が学校や地域講座などに出向き、得意分野のテーマで講演している。2017年度並みの5、6カ所程度の開催を想定している。

(2) 環境エクスカージョン

30万円

昨年に引き続き、NPO 法人自然教育促進会が7月に開催予定の「親子エコキャンプ in 平取」を共催し、ニジマス釣りや調理体験、太陽光クッキングなど自然の中でテントを張り親子でエコな生活を体験してもらう。6月に日高管内えりも町で、9月に恵庭市で予定されている「全道フットパスの集い」を共催する。フットパスは全道各地にコースが整備され、年々広がりを見せており、大自然の中での健康ウォークを推奨し、積極的に参加者を募集する。このほか、北海道消費者協会主催のエゾシカフェスタなど、北海道の野生生物を考えるイベントなどを後押ししていく。

(3) モーリーの森づくり

100万円

2012年度からモーリーの森Ⅱとして、植樹用の種を採取し苗づくり、自然体験活動を夏に実施する。栗山町から用地を借用し植樹する協定を結んでおり、22年度まで保育管理もする。道新こども新聞「まなぶん」の子ども記者と元フムフム通信員・OB、父母から希望者を募り、植樹地周辺の自然の中で自然体験会も同時に実施し、親子で自然保護を考える場とする。

### 【コンテスト事業】

(1) 写真コンテストと写真展

100万円

7月から8月にかけて北海道の野生生物を対象とした写真作品を募集し、コンテストを実施する。2017年度は道内外のアマチュア写真家から787点の応募があった。収入源であるカレンダー事業につながるため、2018年度も開催し、撮影マナーの向上を呼び掛けつつ、北海道の大自然の息吹が伝わる写真を審査委員会で選考する。入賞・入選作は北海道新聞紙上や「モーリー」、ホームページで紹介する。また、写真展は例年通り札幌の富士フィルムフォトサロン札幌で11月に開催する。

(2) 夏休み自然観察記録コンクール

20 万円

北海道自然保護協会との共催。夏休み前に募集の案内を道内小学校に発送し、9月中旬締め切りで作品を募集する。入賞・佳作名を北海道新聞紙上で発表し、優秀作品は道新こども新聞「まなぶん」や「モーリー」、ホームページで紹介する。入賞作品展も好評で、2018年も開催する。

**【出版事業】**

\*自然情報誌「モーリー」の発行

650 万円

年3回(6月、9月、12月)の発行を継続する一方、内容を充実させ、野生生物保護の啓蒙に役立てる。発行経費の見直しのため、今後2年間計6号の制作、印刷の各業務について新たな参入希望業者に相見積もりを実施した結果、いずれの業務も安価を示した業者に変更し、小額ながら経費を節減できる見通しとなった。

**【助成事業】**

\*助成事業

320 万円

野生生物基金の助成については、北海道内で認知度が高く、自然保護、野生生物保全に頑張っている団体・個人の活動を広く応援している。2018年度も前年度と同じく全体申請を200万円とし、別枠で「杉本とき鳥類保護助成基金」100万円を設ける。4月中旬に審査会を開いて助成対象を決定する。対象事業の実施期間は原則1年間で、計画実施後に報告書の提出を求め、内容は「モーリー」に掲載する。審査会開催費用および広告制作費の予算として20万円を設定する。

◇その他の事業(一般会計)

(1) パンフレットなどの作成

25 万円

活動を紹介するパンフレットは年度中に在庫がなくなる見通しで、4年ぶりに新たに作成し、PRに役立てる。

(2) ホームページの維持・更新

10 万円

基金の活動を広く宣伝・紹介するほか、助成事業や写真コンテストの応募用紙のダウンロードなど、事業の推進にも役立てる。

(3) HoBiCCでの事業

10 万円

北海道環境財団、道総研環境科学研究センターと当基金の3団体で2014年に設立した生物多様性保全活動連携支援センター(HoBiCC)に、本年度も運営費の一部として当基金から10万円を拠出する。18年度は特定外来生物のセイヨウオオマルハナバチの駆除を進めるためのシステムづくりや防除対策などを検討する。

<b>&lt;寄付金の累計&gt;</b> (エコ基金を除く)		
年度	寄附金額	備 考
1992年度	23,917,000円	半年間
1993年度	23,893,531円	
1994年度	10,997,445円	
1995年度	15,965,813円	道新補填400万円
1996年度	19,325,900円	道新緊急助成800万円
1997年度	21,990,097円	道新緊急助成800万円
1998年度	41,168,923円	道新緊急助成800万円
1999年度	47,929,138円	
2000年度	6,435,052円	
2001年度	11,983,978円	
2002年度	7,262,749円	
2003年度	6,070,598円	
2004年度	5,297,984円	
2005年度	4,138,147円	
2006年度	5,040,578円	
2007年度	3,881,833円	
2008年度	5,943,290円	
2009年度	4,104,434円	
2010年度	27,031,827円	鮫島和子さん21,347,782円
2011年度	2,480,234円	
2012年度	3,309,250円	辻井達一さん100万円
2013年度	3,633,600円	道新共栄会150万円、道新1300万円を除く
2014年度	5,023,244円	道新共栄会150万円、道新600万円を除く
2015年度	3,505,927円	道新共栄会150万円、道新600万円を除く
2016年度	25,365,660円	杉本ときさん2000万円、道新共栄会150万円 道新600万円を除く
2017年度	1,182,293円	2月末までの累計、道新600万円を除く
<b>累計総額</b>	<b>336,878,525円</b>	